

第 15 回建設業経理士試験 模範解答

1 級

原 価 計 算

〔第 1 問〕

問 1

直接配賦法とは、補助部門間相互の用役の授受は計算上無視して、施工部門に対してのみ用役を提供したものとして配賦計算する方法である。階梯式配賦法とは、他の補助部門にも、より広く用役を提供している部門から配賦計算をおし進めていく方法である。相互配賦法は、補助部門間の用役収受の実態を適正に反映させた計算をするために、補助部門相互の用役消費量に基づき配賦計算する方法である。

問 2

累積的回収期間法とは、投資額を、投資によって生じる年々のネット・キャッシュ・フローで回収した場合、何年目で投資額が回収できるかを計算する方法である。計算が簡単で理解しやすく、投下資金の早期回収を優先する経営者にとっては有効な評価方法であるが、時間価値を考慮していないのみならず、資金回収後の収益性を考慮していないという欠点がある。

〔第 2 問〕

記号 (ア～ス)

1	2	3	4	5
カ	キ	エ	オ	イ

〔第 3 問〕

① 差額収益	¥	9,800,000
② 差額原価	¥	5,930,000
③ 差額利益	¥	3,870,000

〔第 4 問〕

(1) 第 1 工程の月末仕掛品原価	¥	115,700
(2) 第 1 工程の完成品単位原価	¥	1,290
第 2 工程の完成品単位原価	¥	1,855

〔第 5 問〕

問 1

完成工事原価報告書		
自 平成×3 年 10 月 1 日		
至 平成×3 年 10 月 31 日		
宮古島建設工業株式会社		
(単位:円)		
I. 材料費		1,781,690
II. 労務費		1,519,190
(うち労務外注費	651,730)
III. 外注費		437,520
IV. 経費		1,066,210
(うち人件費	546,735)
完成工事原価		4,804,610

問 2

¥

2,014,140

問 2

①	N材料の副費差異	¥	1,050	記号 (AまたはB)	A
②	運搬車両部門費予算差異	¥	9,770	記号 (AまたはB)	B
③	運搬車両部門費操業度差異	¥	5,000	記号 (AまたはB)	A

〈原価計算解説〉

〔第 3 問〕

差額収益	9,800,000 円	
差額原価		
変動工事原価	5,550,000 円	
販・管個別費	380,000 円	5,930,000 円
差額利益		3,870,000 円

〔第 4 問〕

工程別総合原価計算表

(単位：円)

摘 要	第 1 工程			第 2 工程		
	素材費	加工費	合 計	前工程費	加工費	合 計
当 月 製 造 費 用						
素 材 費	325,000	—	325,000	—	—	—
賃 金	—	377,200	377,200	—	285,000	285,000
工 程 経 費	—	125,000	125,000	—	73,000	73,000
補助部門費配賦額	—	33,000	33,000	—	34,160	34,160
前 工 程 費	—	—		864,300	—	864,300
計	325,000	535,200	860,200	864,300	392,160	1,256,460
月 初 仕 掛 品 原 価	67,000	52,800	119,800	87,100	31,090	118,190
計	392,000	588,000	980,000	951,400	423,250	1,374,650
月 末 仕 掛 品 原 価	63,700	52,000	115,700	129,000	39,900	168,900
完 成 品 原 価	328,300	536,000	864,300	822,400	383,350	1,205,750
完 成 品 数 量	670 個			650 個		
完 成 品 単 位 原 価	490	800	1,290	1,265.2	590.2	1,855

・第 1 工程

月末仕掛品原価（平均法）

素 材 費		加 工 費	
月初 67,000 円	完成 670 個	月初 52,800 円	完成 670 個
当月 325,000 円		当月 535,200 円	
	月末 130 個		月末 65 個 (130 個×50%)

月末仕掛品

$$\begin{aligned}
 \text{素材費} &: (67,000 \text{ 円} + 325,000 \text{ 円}) \times \frac{130 \text{ 個}}{670 \text{ 個} + 130 \text{ 個}} = 63,700 \text{ 円} \\
 \text{加工費} &: (52,800 \text{ 円} + 535,200 \text{ 円}) \times \frac{65 \text{ 個}}{670 \text{ 個} + 65 \text{ 個}} = 52,000 \text{ 円}
 \end{aligned}
 \left. \vphantom{\begin{aligned} \text{素材費} \\ \text{加工費} \end{aligned}} \right\} \text{合計 115,700 円}$$

完成品原価

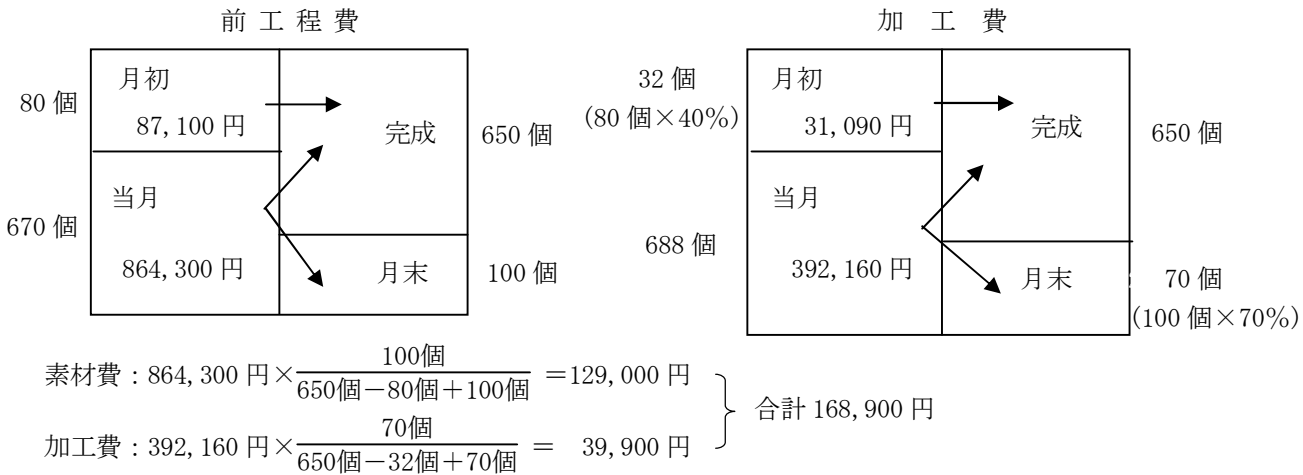
$$\begin{aligned}
 \text{素材費} &: 67,000 \text{ 円} + 325,000 \text{ 円} - 63,700 \text{ 円} = 328,300 \text{ 円} \\
 \text{加工費} &: 52,800 \text{ 円} + 535,200 \text{ 円} - 52,000 \text{ 円} = 536,000 \text{ 円}
 \end{aligned}
 \left. \vphantom{\begin{aligned} \text{素材費} \\ \text{加工費} \end{aligned}} \right\} \text{合計 864,300 円}$$

完成品単位原価

$$864,300 \text{ 円} \div 670 \text{ 個} = 1,290 \text{ 円/個}$$

・第 2 工程

月末仕掛品原価（先入先出法）



完成品原価

前 工 程 費： 87,100 円+864,300 円-129,000 円=822,400 円

加 工 費： 31,090 円+392,160 円-39,900 円 =383,350 円

合計 1,205,750 円

完成品単位原価

1,205,750 円÷650 個=1,855 円/個

〔第 5 問〕

1. 工事原価計算表

工 事 原 価 計 算 表

(単位:円)

	312	313	314	315	合 計
月初未成工事原価	414,350	158,630	—	—	572,980
当月発生工事原価					
I. 材料費					
M材料	237,000	423,000	864,000	183,000	1,707,000
N材料	—	121,140	306,950	—	428,090
II. 労務費					
G作業	144,210	285,890	569,250	149,270	1,148,620
労務外注費	179,900	278,800	344,000	169,900	972,600
III. 外注費					
一般外注費	56,880	111,520	296,500	75,450	540,350
IV. 経費					
直接経費	145,870	271,090	339,420	119,210	875,590
役員報酬			213,030	63,120	276,150
運搬車両部費	37,335	74,015	147,375	38,645	297,370
当期完成工事原価	—	1,724,085	3,080,525	—	4,804,610
月末未成工事原価	1,215,545	—	—	798,595	2,014,140

2. 材料費

(1) M材料配賦額

312：¥3,000× 79 kg=¥237,000

313：¥3,000×141 kg=¥423,000

314：¥3,000×288 kg=¥864,000

315：¥3,000× 61 kg=¥183,000

(2) N材料配賦額

$$313 : (\yen 620 + \yen 53) \times 180 \text{ 本} = \yen 121,140$$

$$314 : (\yen 620 + \yen 53) \times 40 \text{ 本} = \yen 26,920$$

$$(\yen 630 + \yen 53) \times 410 \text{ 本} = \yen 280,030$$

$$\yen 306,950$$

(3) N材料の副費差異

$$\text{当月予定配賦額} : \yen 53 \times 570 \text{ 本} = \yen 30,210$$

$$\text{当月配賦差異} : \yen 30,210 - \yen 28,800 = \yen 1,410 (\text{貸方差異} \cdot \text{有利差異})$$

$$\text{配賦差異勘定残高} : \yen 2,460 (\text{借方残高}) - \yen 1,410 (\text{貸方差異}) = \yen 1,050 (\text{借方残高} \cdot \text{不利差異})$$

3. 労務費

予定配賦額

$$312 : \yen 2,530 \times 57 \text{ h} = \yen 144,210$$

$$313 : \yen 2,530 \times 113 \text{ h} = \yen 285,890$$

$$314 : \yen 2,530 \times 225 \text{ h} = \yen 569,250$$

$$315 : \yen 2,530 \times 59 \text{ h} = \yen 149,270$$

4. 経費

(1) 役員報酬の配賦額

$$314 : \yen 591,750 \times \frac{54 \text{ h} \times 1.5}{54 \text{ h} \times 1.5 + 16 \text{ h} \times 1.5 + 120 \text{ h} \times 1.0} = \yen 213,030$$

$$315 : \yen 591,750 \times \frac{16 \text{ h} \times 1.5}{54 \text{ h} \times 1.5 + 16 \text{ h} \times 1.5 + 120 \text{ h} \times 1.0} = \yen 63,120$$

(2) 運搬車両部門費の予定配賦額

① 予定配賦率

$$(\yen 2,097,000 + \yen 1,565,760) \div 5,592 \text{ h} = \yen 655 / \text{h}$$

$$\text{固定費率} : \yen 2,097,000 \div 5,592 \text{ h} = \yen 375 / \text{h}$$

$$\text{変動費率} : \yen 1,565,760 \div 5,592 \text{ h} = \yen 280 / \text{h}$$

② 予定配賦額

$$312 : \yen 655 \times 57 \text{ h} = \yen 37,335$$

$$313 : \yen 655 \times 113 \text{ h} = \yen 74,015$$

$$314 : \yen 655 \times 225 \text{ h} = \yen 147,375$$

$$315 : \yen 655 \times 59 \text{ h} = \yen 38,645$$

③ 予算差異

$$\text{当月予算差異} : \yen 280 / \text{h} \times 454 \text{ h} + \yen 2,097,000 \div 12 \text{ ヲ月} - \yen 292,550 = \yen 9,320 (\text{貸方差異} \cdot \text{有利差異})$$

$$\text{予算差異勘定残高} : \yen 450 (\text{貸方残高}) + \yen 9,320 (\text{貸方差異}) = \yen 9,770 (\text{貸方残高} \cdot \text{有利差異})$$

④ 操業度差異

$$\text{当月操業度差異} : \yen 375 / \text{h} \times (454 \text{ h} - 5,592 \text{ h} \div 12 \text{ ヲ月}) = \triangle \yen 4,500 (\text{借方差異} \cdot \text{不利差異})$$

$$\text{操業度差異勘定残高} : \yen 500 (\text{借方残高}) + \yen 4,500 = \yen 5,000 (\text{借方差異} \cdot \text{不利差異})$$

5. うち人件費

	313	314	合 計
月初未成工事原価	10,900	—	10,900
当月発生工事原価			
IV. 経費			
従業員給料手当	101,690	129,900	231,590
法定福利費	13,175	14,760	27,935
福利厚生費	27,770	35,510	63,280
役員報酬	—	213,030	213,030
合 計	153,535	393,200	546,735